

未来をひらく学校づくりー基本計画ワークショップー

#ごせの
みらい' 

みんなでつくる未来の学校

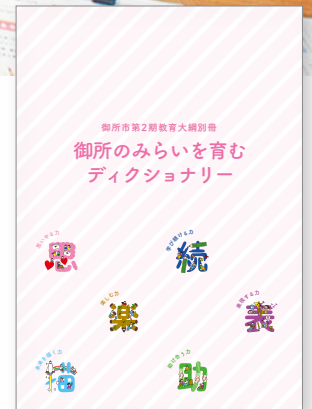
新しい学校づくりにおける 市民参加の背景



御所市においては、子どもたちをはじめ、幅広い市民の教育や学びに関わる取組の多くを市民参加によって進めてきました。2022年に策定した「御所市教育大綱」(5年間の御所市における総合的な教育や学びについての指針)では、コロナ禍において対面やオンラインを組み合わせた市民参加のワークショップを開催し、学校・家庭・地域の連携による学びを重視した内容としてとりまとめました。



御所市教育大綱(本編)



御所市教育大綱(副読本)

2024年度には、御所市における将来的な学校再編を見据え、今後5年間の小中学校の連携の視点や取組内容を示した「御所市学校教育ビジョン」を策定しました。このビジョンづくりにおいても、教職員や市民の皆さんを対象としたワークショップを実施し、子どもたちがこれからの時代に求められる力を育むための基本目標や、それらを実現するための学校間や地域・保護者との連携の視点などを整理しました。



教職員ワークショップ
(2024年10月)

Ⅲ-2 4つの「基本目標」と2つの「連携の視点」について

新しい学校教育ビジョンでは、スローガンに基づき、これからの時代に求められる力を育むために4つの基本目標を掲げます。さらに、それらを実現するための2つの連携の視点を定め、学校・地域が一体となって子どもたちの成長を支えていきます。

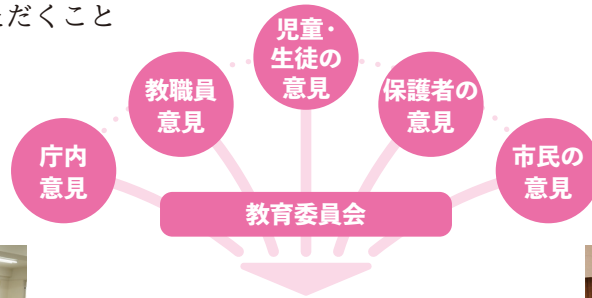
- | | | |
|--|--|------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 基本目標1 基本目標2 基本目標3 基本目標4 | <ul style="list-style-type: none"> つぎの時代を拓く確かな学力を育む
知識を身につけるだけでなく、それを活用し、新たな価値を生み出す力を養う。 なりたい自分になるための多様な力を育む
困難を乗り越え、自分らしく生き抜くための態度や力を培う。 がっちり支え合い、地域を豊かにする市民性を育む
地域に根差し、多くの人との関わることで、社会を支える人材を育てる。 理解と共感でみんなが安心して学ぶ場をつくる
誰もが安心して学びに取り組める仕組みを構築する。 | <p>4つの基本目標</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 連携の視点1 連携の視点2 | <ul style="list-style-type: none"> 学校間・教員同士の連携
教員チームの組織化や支援体制の整備を進め、学校の枠を超えた協力体制を築く。 学校と保護者・地域との連携
保護者の学びの機会を創出し、地域とともに学校や子どもたちを支える仕組みを築く。10 | <p>2つの連携の視点</p> |

Ⅲ. 御所市の小中学校における教育・学びの推進

御所市学校教育ビジョン(2025-2029)の基本目標と連携の視点

ワークショップの目的

御所市の新しい学校づくりを、子ども・教職員・保護者・地域の皆さまとともに作り上げていくために、未来の学びや学校の姿について幅広い意見や提案をいただくことを目的に開催しました。



庁内検討会議
(2025年5月)

つなぐ学び ひらく未来
 子どもの学びをつなぐ・子どもの育ちをつなぐ・
 教職員の意識をつなぐ・家庭と地域の絆をつなぐ



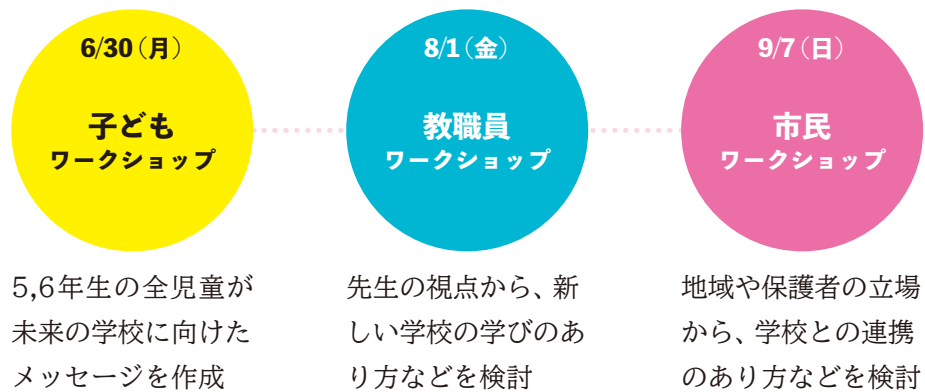
タウンミーティング
(2025年6～7月)

新しい学校の施設整備方針



ワークショップの流れ

子ども・教職員・保護者・地域の皆さまとともに、新しい学校づくりのワークショップを開催しました。6月は市内全小学校の5年生と6年生。8月は市内の全教職員。9月は保護者や地域住民を対象として実施し、数多くの意見やアイデアをいただきました。



新しい学校づくりの基本計画

子どもワークショップ



- 日時** 2025年6月30日(月) 9:00～12:00(5年生) 13:00～16:00(6年生)
- 会場** 御所市防災交流館Mimoro(ミモーロ) 多目的スペース御諸(みもろ)
- 参加者** 御所市内の小学5,6年生 5年生:130名 6年生:110名
- テーマ** 「みらいの夢の学校へ向けたメッセージ」

新しい学校を見据えた グループワーク

御所市の全小学校の5年生と6年生がそれぞれに集まり、「新しい学校づくりワークショップ」を開催しました。「未来の学校がこんな学校だったらいいな!」というテーマのもと、普段は異なる学校で過ごしている子どもたちが一緒にグループをつくり、“新しいクラス”をつくるという形で活動を進めました。グループ内では、初めて出会う友だちとも協力しながら、「どんな学校だったら楽しい?」「どんな校庭があったらワクワクする?」「どんな先生がいたら安心する?」など、それぞれの意見を出し合いました。



グループごとの 作品づくり

「やぐら組み立てチーム」「デコレーションチーム」「メッセージボードチーム」に分かれ、役割分担をしながら協力して作業を進めました。最後は一つの作品として完成させ、その過程を通して、仲間と役割を分担しながら「協力する力」、自分の思いや考えを伝える「表現する力」、互いの意見を認め合い気持ちを受け止める「共感する力」を育む機会となりました。

当日のプログラム

1 やぐら組み立てチーム



7本の棒材とロープを使い、土台が安定するように話し合いながら組み立てました。何度も結び直しや調整を重ね、仲間と役割を分担しながら完成を目指しました。



2 デコレーションチーム



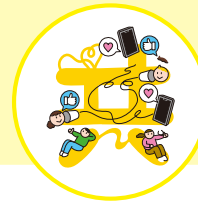
さまざまな素材を使い、全体のバランスを考えながら装飾しました。配置や色の組み合わせを話し合いながら工夫を重ね、アイデアを形にしていきました。



3 メッセージボードチーム



「新しい学校がこんな学校だったらいいな」という思いが描かれたカードをボードにまとめました。読みやすいレイアウトや楽しくなる装飾を意識して仕上げました。

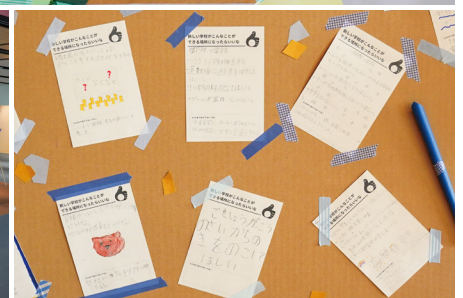


作品に込められた 想いと展示

ワークショップを通じて5年生と6年生で計10点の作品ができました。子どもたちのメッセージには、「新しい学校に対する「学びのあり方」や「日常の居場所としての視点」、「校舎への期待」、「イベントや行事などへのアイデア」など、数多くの想いや希望を見ることができました。これらの作品はワークショップ実施から3か月程度展示し、保護者をはじめ市民の皆さんにもご覧いただきました。

5・6年生が描く「未来の学校」TOP 3

- 1位: 屋内プールがあったらいいな
- 2位: ランチルームがあったらいいな
- 3位: 体育館にエアコンがあったらいいな



教職員ワークショップ



日時 2025年8月1日(金) 13:00 ~ 16:00

会場 御所市防災交流館Mimoro 2F研修室A・B

参加者 御所市内の小中学校の全教職員 120名

内容 「整備方針案についての意見交換」、「諸室機能のあり方について」、「地域連携について」など

市内の全教職員が参加したワークショップ

教職員を対象としたワークショップでは、市内の小中学校から120名の参加があり、熱気あふれる意見交換が展開されました。それぞれの教職員が担当する「学年」や「教科」ごとにテーブルに分かれ、新しい学校の諸室（各種教室や職員室、運動施設、その他の空間）に対する「ハード面」と「ソフト面」の両面から意見を出し合い、ワークシートにまとめました。また、地域との連携に関するアイデアも数多くいただくことができました。

当日のプログラム



1 学校を越えた
先生同士の自己紹介



2 事例から最新の学校の
設計や運営を学ぶ



3 御所市における
未来の学校を考える

学校諸室に関するアイデア

子どもたちの学びの機会

- ・ゆとりある教室の整備
- ・柔軟な対応ができる教室の壁
- ・交流がうまれる多目的スペース
- ・テラスを活用した菜園
- ・廊下や階段を活用した図書スペース

安心な学校

- ・子どもがクールダウンできる空間
- ・見通しのよい廊下
- ・前期課程と後期課程の動線を考慮した設計
- ・カウンセリング室や相談室などの小部屋

教職員の働く環境

- ・過去の資料を参照できたり教材を共有できる仕組み
- ・教職員間でコミュニケーションを取りやすい職員室
- ・職員室とは別に設けられた教師ステーションで、児童・生徒とコミュニケーションを取りやすい空間づくり
- ・休憩やリフレッシュできる空間

多様なつながりのある学校

- ・異学年で交流できるランチルーム
- ・発表がおこなえる大階段
- ・対格差を考慮した、施設設計

地域連携に関するアイデア

御所の歴史や文化を 次の世代に伝える仕掛けづくり

- ・御所市の文化を触ったり、見たり、体験できるコーナー設置
- ・各校の歴史や特色が学べる資料室

地域の人たちと連携した活動

- ・校内や周辺の清掃活動
- ・ゲストティーチャーの招聘
- ・放課後に地域の人たちと過ごす活動

安心、安全な学校づくり

- ・IDカードなどのセキュリティーの導入
- ・児童生徒専用と地域開放ゾーンを区別したセキュリティー管理

地域の人たちの居場所づくり

- ・地域の団体が使える開放された部屋
- ・地域の人たちも使える図書室やプールなど
- ・農園を地域の人たちと運営

地域に開かれた情報発信

- ・保護者や地域にオンラインツールを活用したアーカイブもできる情報発信
- ・地域の人たちの作品など顔が見えるものを展示

日常から防災を意識した学校

- ・地域住民と進める防災教育
- ・地域の防災拠点機能



市民ワークショップ



- 日時** 2025年9月7日(日) ワークショップ 10:00 ~ 12:30 / 展示の観覧等 10:00 ~ 15:00
- 会場** 御所市防災交流館Mimoro(ミモロ) 2Fふれあい・交流スペースA・B
- 参加者** 市民22名(地域の方や保護者など)
- 内容** 「学校づくりの事例紹介」、「整備方針についての感想共有」、「展示観覧と個人ワーク」
「グループワーク:新しい学校で何ができる?」など

これまでの経緯や 学校づくりの 先進事例を学ぶ

ワークショップの冒頭では、これまでの子どもや教職員のワークショップの結果(作品やパネル)を展示し、それらの内容を把握しました。また、地域連携で有名な義務教育学校の先進事例の取組についてもレクチャーがあり、学びを深めました。



地域住民や保護者が 学校で取り組めること

グループワークでは4つのテーブルに分かれて、地域住民や保護者の視点から「新しい学校で何ができる？」をテーマとしたワークを行いました。国内外の取組事例のカードも参考にしながら、自分たちができること、やってみたいことについて、数多くのアイデアが生まれました。



新しい学校への期待

ワークショップの参加者からは、新しい学校への期待についても数多くの意見が出されました。それぞれのグループからの主な意見には以下のようなものがありました。

グループ1

- ・学校の空間を地域にも開き、子どもと地域住民が交流できる取組
- ・屋外環境として菜園やそこでの収穫体験など「循環」をテーマとした学びや活動
- ・保護者や地域住民による学校づくりに関わるボランティア、未就学児の保護者との交流

グループ2

- ・農の体験。植える、育てる、収穫する、食べる、コンポストから土へ
- ・地域の美化活動などを通じて、子どもとその親、地域住民がつながりをもてる仕組み
- ・御所の多様な資源を活用して地域全体で子どもたちを育てていく

グループ3

- ・学校と地域が連携したプログラム等の調整を行う「人材」が必要
- ・地域の関係主体も含めた学校運営を支えるための「協議会」の必要性
- ・幼保との縦のつながりや、行政機関や専門機関との連携

グループ4

- ・ふるさと意識を育むための学びにおける地域資源(自然、人材、文化など)との連携
- ・大人の学びの拠点としてや、地域の人が講師になるなど、市民が「自分の学校」と思える場
- ・異学年や多様性を生かした学習



ワークショップ全体の 意見の整理

3つのワークショップ(子ども、教職員、市民)を通じて、それぞれの立場からの大切なお意見やアイデアをたくさんいただくことができました。これらを通じて、新しい学校づくりに向けた大切な視点や、空間整備に関わるポイントも見えてきました。

3つのワークショップから見えてきた学校づくり視点や空間整備のポイント

ワークショップでの主な意見

- みんなが集まれる広い場所
- 友だちとたくさん話せる場所
- 高校生との交流
- 地域の人や団体が使える部屋
- 図書室やプール等は地域住民も使える
- 発表ができるステージ
- ランチルームで地域と一緒に食べる機会

- 学年を超えた協働学習がしやすい空間
- 子ども同士が自然に関われる共用スペース
- 実験や体験をたくさんしたい
- いろいろな学び方に対応できる教室
- 少人数指導ができる教室を確保したい
- 一人でもグループでも学べる教室がいい
- 一人一人の個性や得意なことを伸ばせる学校にして欲しい
- これからの社会に必要な力を育てる柔軟な教育を進めて欲しい

見えてきた視点

- ・つながりを生み出す「開かれた学びの空間」
- ・異学年や地域とのかかわりの中で、多様な考えに触れ、学びを広げる

- ・多様な学びを支える「柔軟で可変的な教室環境」
- ・探究・協働・少人数対応など、多様な学び方への対応が必要

空間整備に関わるポイント

- ・オープンスペースや大階段など、自然に交流が生まれる空間
- ・学年を越えて使える共有空間の確保
- ・地域が活用できるスペースの整備

- ・可動式間仕切りによる柔軟な教室構成
- ・少人数学習室や個別支援室の充実
- ・ICT環境を前提とした高速ネットワーク整備

- しんどいときに行ける場所が欲しい
- 一人になれるスペースが欲しい
- いじめのない学校が良い
- クールダウンスペースが必要
- スクールカウンセラーや外部専門職と連携しやすい空間が欲しい
- 保護者対応ができる個室を確保したい
- 各フロアに先生ステーションが欲しい
- 見守りやすい動線設計
- 子どもが安心して通える学校にして欲しい
- 不登校支援を充実させて欲しい

- 子どもと地域が日常的に交流できる仕組みが欲しい
- 世代を超えたつながりを育てたい
- 地域行事と学校をもっと連動させる
- 子どもと地域が共に学べる場所に
- 学校運営協議会の必要性
- 大人たちも「自分の学校」と思える場や機会
- 学校と市民団体の交流
- 地域の人が気軽に立ち寄れる学校
- 災害のときも安全な学校
- 地域の人たちとのイベント交流したい

- ・心身を支える「安心・支援の拠点機能」
- ・子ども一人ひとりを支える体制と施設整備

- ・地域と未来をつなぐ「共創の拠点」
- ・地域とともに子どもを育てる学校

- ・スクールカウンセラーや外部専門職と連携しやすい空間
- ・見守りやすく、安全性に配慮した動線設計

- ・地域活動やボランティアが入りやすい受付・調整機能
- ・防災拠点としての設備整備
- ・自然・農体験などを取り入れられる屋外環境
- ・早朝や放課後、休日など時間の変化に応じた学校の地域開放が工夫できるデザイン

2026年3月
御所市教育委員会